

## <目標設定について>

### 1. 交流・賑わいの促進

平均滞在日数を10年後の平成35年には2.57日の実現を目指す。

交流・賑わいの促進を確認するための具体的指標は、本市が毎年実施している観光アンケート調査に基づく「来函観光客の平均滞在日数」とし、その増加を実現することで交流・賑わいの達成度を判断する指標とします。

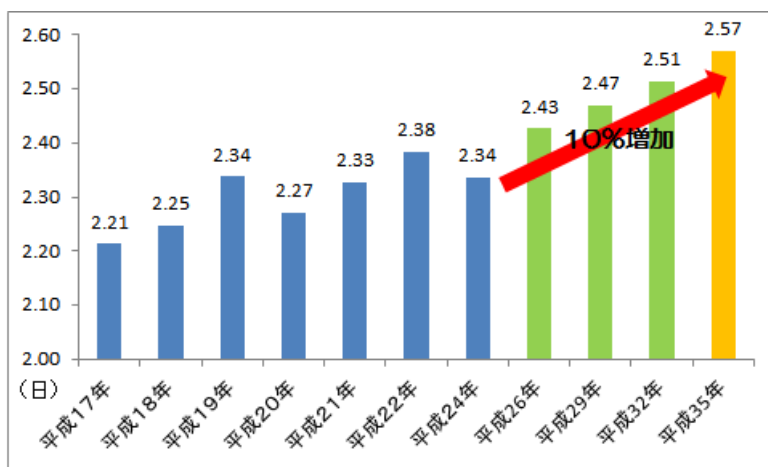
具体的には、これまでの滞在日数の増加傾向に基づき、引き続きこの増加傾向を維持していくことに重きを置き、平成24年の滞在日数2.34日を10年後の平成35年には2.57日（10%増）にすることを目標とします。そして経年的に達成度を確認しつつ柔軟かつ効果的な施策を実施することとします。

また、平均滞在日数を増加させることにより、来函観光客の平均消費単価の増加を図り、本市における観光による消費額の増加を実現することとします。

なお、前計画では観光入込み数の目標を設定し、その実現のために各種施策を実施しましたが、残念ながら実現に至りませんでした。その要因としては、予想が難しい国際社会・経済の変化をはじめ、度重なる天候不順や東日本大震災など自然現象などの外的な要因が大きく影響しているためと考えられます。

今後も、観光入込み客数は、予想が難しい外的要因の影響を受けることが想定され、本市が実施する施策の達成度を判断する指標としてはなじまないため、同客数の10年後の目標値の設定は行わないこととします。

【平均滞在日数の目標値】



出典：函館市「観光アンケート調査の結果」から算出

## 2. おもてなし・満足度の向上

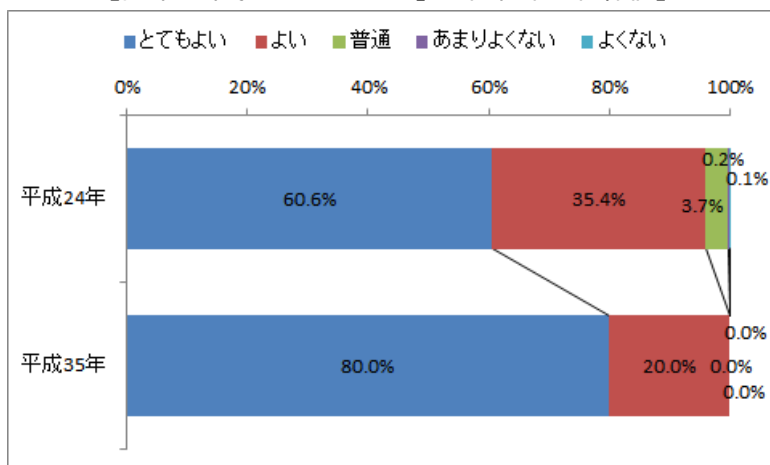
函館の印象について「とてもよい」の回答率を10年後の平成35年には80%達成を目指す。

おもてなし・満足度の向上実現を確認するための具体的指標は、本市が毎年実施している観光アンケート調査に基づく「函館の印象」とし、そのなかで「とてもよい」の回答率の増加を実現することで、おもてなし・満足度向上の達成度を判断する指標とします。

具体的には、「とてもよい」の回答率を、10年後の平成35年には80%にすることを目標に、経年的に達成度を確認しつつ柔軟かつ効果的な施策を実施することとします。

なお、「とてもよい」の回答率を増加させることにより、来函観光客の再来訪意向の高まりや再来訪の実現、口コミ効果による新たな観光需要の創出などへもつながることが期待されます。

【函館の印象「とてもよい」の回答率の目標値】



出典：函館市「観光アンケート調査の結果」

### 3. 国際化の促進

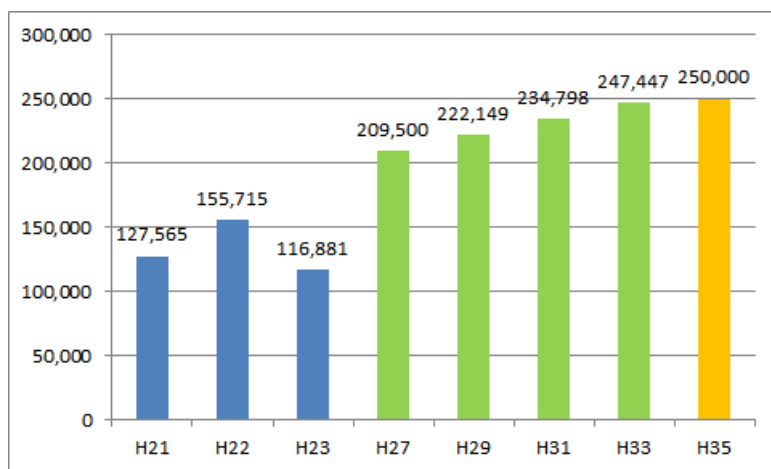
来函宿泊外国人観光客数を10年後の平成35年には25万人実現を目指す。

国際化の促進の進捗を確認するための具体的指標は、北海道が実施する来道宿泊外国人観光客数に基づく「来函宿泊外国人観光客数」とし、その増加を実現することで国際化促進の達成度を判断する指標とします。

具体的には、これまでの来道宿泊外国人観光客数における来函宿泊外国人観光客数の割合の傾向を参考に、今後の来函宿泊外国人観光客の増加実現に重きを置き、平成23年の来函外国人観光客数約11.7万人を10年後の平成35年には25万人にすることを目標とします。そして経年的に達成度を確認しつつ柔軟かつ効果的な施策を実施することとします。

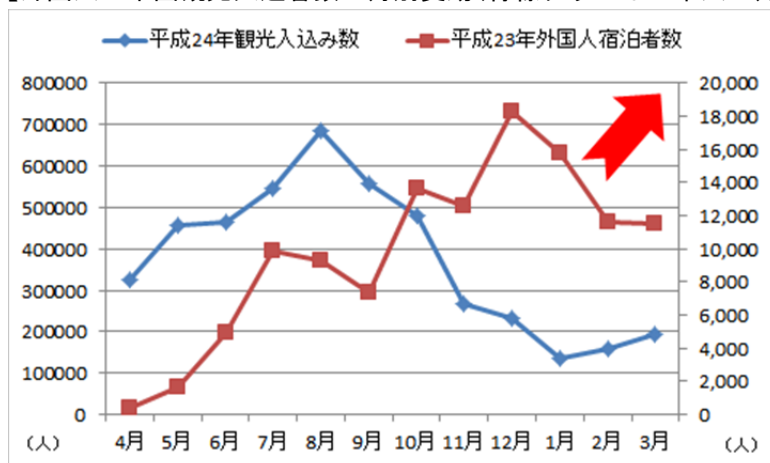
なお、来函宿泊外国人観光客は秋冬に増加することから、この季節の魅力を海外へ向けてPRする観光プロモーションを展開するなど、特に秋冬における来函宿泊外国人観光客のさらなる増加を図ります。

【来函宿泊外国人観光客数の目標】



出典：北海道「平成23年度訪日宿泊外国人数」より算出

【外国人の来函観光入込客数の月別変動(青線グラフは日本人の月別変動)】



出典：函館市「平成24年度 来函観光入込客数推計」、北海道「平成23年度訪日宿泊外国人数」